

養護教諭の実践意欲につながる評価シートの提案

—— 養護教諭研修受講者への調査を通して ——

松田 佳奈子*

キーワード	沖縄県の健康課題 養護教諭の資質能力 養護教諭研修（初任者研修、教職5年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修）	沖縄県公立学校教員等育成指標 評価シート
-------	--	-------------------------



I はじめに

沖縄県はかつて健康長寿県として知られていたが、食習慣の変化や運動量の減少、喫煙率の高さや健診受診率の低さ、社会経済的な格差の拡大などが要因となり、2010年の都道府県別平均寿命では、男性の順位は30位まで低下し、県民に大きな衝撃を与えた。

現在、「健康おきなわ21（第2次）～健康・長寿おきなわ復活プラン～」(平成26～34年度)が策定され、健康長寿を取り戻すべく、数々の取組が行われている。沖縄県教育委員会では、平成29年に沖縄県教育振興基本計画【後期改訂版】において、健康教育に関する取組を下記のとおり示している。

健やかな心と体を育む教育の推進

幼児児童生徒がたくましく生きるための心身の健康の保持増進と体力の向上を図るとともに、生涯を通じて運動に親しむ態度の育成や健康で安全な生活を送るための基礎を培う体育・スポーツ、健康教育の充実に努める。

このような背景から、学校保健活動の推進にあたって中核的な役割を果たしている養護教諭への期待は、ますます高まっている。

その養護教諭の現状として、多くの学校において1人配置(養護教諭複数配置基準:小学校851人以上、中学校・高等学校801人以上、特別支援学校61人以上)であるため、同職と学び合う機会が他の教諭と比較して極端に少ない状況にある。また、勤務する学校の校種、規模、職場環境、地域環境によっても、担う職務内容は多様であり、職務における比重も様々である。最近では、「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)」(以下「新型コロナ」)の影響により養護教諭の役割が更に増加し、児童生徒のみならず保護者や教職員への対応も求められている。このような現状から、養護教諭の資質能力の向上が日々求められており、それらのことを実現するために、研修の機会はますます重要となっている。

そこで本県が実施するキャリアステージに応じた養護教諭研修(初任者研修、教職5年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修)(以下「養護教諭研修(初任研、5年研、中堅研)」)の内容検討や充実を図る中で、養護教諭が日々の実践に照らして客観的に自己を振り返り、資質能力や課題を把握しながら、今後の実践意欲につなげていけるようなツールの開発が必要と考え、本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 養護教諭の研修体系

教職員研修の位置づけとしては、自主的研修、校内研修、行政研修の3種類があり、さらに、行政研修は4つに分類される(表1)。 **表1 教職員研修の体系**

自主的研修	個人またはグループが自ら課題を持って自律的・主体的に自発的に行う研修及び所属長承諾を受けて参加する教育研究団体等が実施する研修		
校内研修	日常の教育実践の向上に資するため、校内において組織的・計画的に行われる研修		
行政研修	基本研修	指定研修	キャリアステージに応じて、専門職としての職務遂行に必要な知識、技能、態度等の向上を図るために実施する研修
		職務研修	職務に応じて、職務遂行上必要な知識、技能等の修得を目的として実施する研修
	課題研修		当面する教育課題について、組織的、計画的に実施
	専門研修		教科領域を中心として、職務遂行上必要な専門的事項について実施
特別研修		県教育委員会及び市町村教育委員会が、県内外及び国外へ派遣する研修	

* 沖縄県立総合教育センター研究主事

本研究では、行政研修について研究を進める。現在、養護教諭が受講できる行政研修については、下記のとおりである（図1）。

		採用ステージ (1年目)	基礎ステージ (概ね3年目前後)	充実ステージ (概ね8年目前後)	発展ステージ (概ね13年目前後)	指導ステージ (概ね18年目前後)	
行政研修	基本研修	指定研修	新規採用職員研修	教職5年経験者研修	中堅教諭等 資質向上研修		
		職務研修		部主事・主任研修（教育相談、特別支援教育コーディネーター、保健主事研修等）			
		各職務研修（養護教諭）					
	課題研修	カウンセリング研修等					
	専門研修	免許法認定講習等					
	特別研修				喫緊課題の指導者研修 (教職員支援機構)		
	海外研修（短期・長期研修）						
	新教育大学大学院等研修（上越・兵庫・鳴門教育大学大学院、琉球大学教職大学院 等）						
	長期・短期研修・ICT研修（総合教育センター研修 等）						

図1 養護教諭が受講できる行政研修

2 キャリアステージに応じた養護教諭研修について

(1) 本県養護教諭の構成について

本県では、小学校（国立、公立、私立）268校、中学校（国立、公立、私立）151校、高等学校（公立、私立）68校、特別支援学校21校の計508校があり、その中で養護教諭（公立、県立の本務者。再雇用含む）の配置は474名である（令和2年5月1日現在）。主な経験年数による分類は図2のとおりである。



図2 本県養護教諭の構成について

(2) 沖縄県公立学校教員等育成指標に基づいた養護教諭研修の内容

沖縄県教育委員会では、平成30年度より「沖縄県公立学校教員等育成指標」（以下「教員等育成指標」）を作成し、キャリアステージに応じて求められる資質能力を以下のとおりに示している（表2）。

表2 養護教諭に求める4つの力

教職を支える力	児童生徒等の成長に極めて大きな影響を与える教員として、職務を担う上で前提となる資質能力
生徒指導力	児童生徒等の社会的資質や自己指導能力の育成を目指して行われる生徒指導の実践に関する資質能力
授業実践力 (学校保健実践力)	児童生徒等の確かな学力の育成を目指して行われる学習指導において中心となる授業実践に関する資質能力 ※養護教諭については、その職の専門性に関する力として「学校保健実践力」とする
学校運営力	全職員の連携・協働体制のもとで運営される学校において、個々の教員が分担して担う校務を遂行するために必要な資質能力

(3) 現行の養護教諭研修概要について

本県養護教諭に求める「4つの力」を身に付けるべく、現在、下記の内容でキャリアステージに応じた研修が実施されている。

① 養護教諭初任者研修（令和2年度より名称が変更された）

初任研は、1年間、校内において研修指導者を中心とする指導・助言による研修及び校外において本センター等が実施する講義・演習等による研修を実施している（図3）。

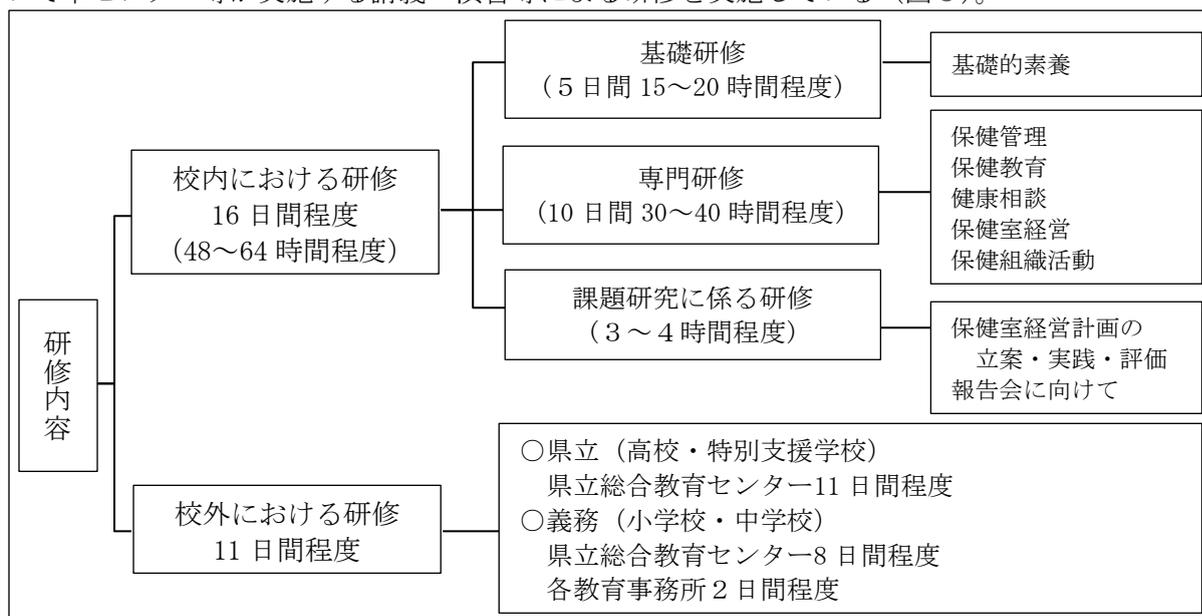


図3 養護教諭初任者研修（研修概要）

② 養護教諭5年経験者研修

5年研は、校外において本センター等における研修を4日間程度（本センター3日、教育事務所1日）実施している。研修の内容は、健康教育上の現代的課題に関する研修項目を設定するなど配慮し、精選・重点化を図っている。

③ 養護教諭中堅教諭等資質向上研修（令和2年度より名称変更）

中堅研は、校内外研修と特定課題研究を大きな柱とし、本センターをはじめ、関係教育機関と連携を図りながら実施している（図4）。

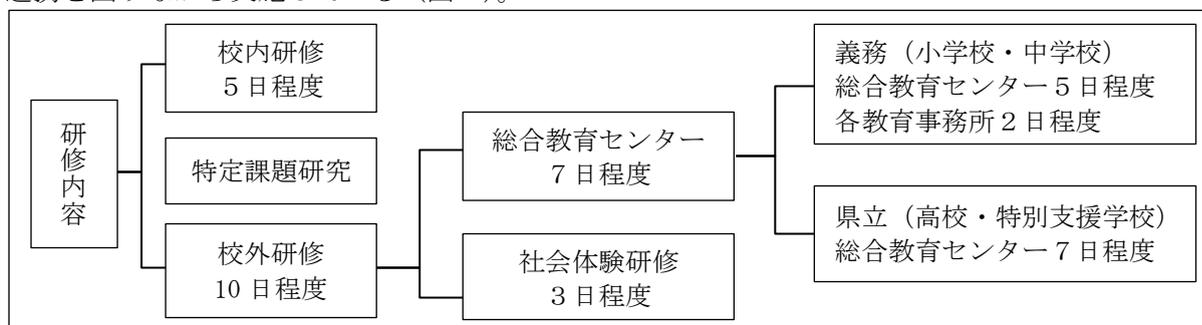


図4 養護教諭中堅教諭等資質向上研修（研修概要）

3 アンケート及び訪問による調査結果と分析

今回、現行の養護教諭研修が実践にどのように活用されているのかを把握するため、令和元年度養護教諭研修受講者32名（初任研10名、5年研15名、中堅研7名）を対象にアンケート調査及び聞き取り調査を行った（表3）。 表3 養護教諭研修に関する調査

1	調査対象者数（校種別） 小学校15名、中学校6名、小中学校2名、高等学校3名、特別支援学校6名
2	調査方法及び実施月 (1) 質問紙によるアンケート調査：令和2年9月 (2) 訪問による聞き取り調査：令和2年11月～12月
3	調査内容 (1) 調査項目 ①勤務校 ②研修に関すること ③教員等育成指標について ④養護教諭に求められる能力について ⑤養護教諭研修の活用の度合いとその具体的状況 ⑥職務上困っていること ⑦養護教諭研修への要望 (2) アンケート調査回答に関する聞き取り（令和元年度初任研受講者6校を訪問）

(1) 勤務校について

養護教諭研修受講者の現在の勤務校状況については、図5～7のとおりである。学校規模は、小規模校が最も多かった。配置状況については62%が1人配置だった。担当する校務分掌の数について「なし」と回答した割合は、特別支援学校4校と高等学校1校で16%だった。また、校務分掌数「2」と回答した割合は29%と最も多く、中には5つの校務分掌を抱えている養護教諭もいた。

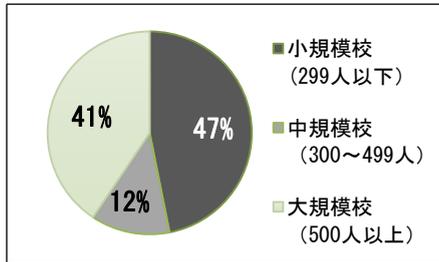


図5 学校規模(在籍数別)

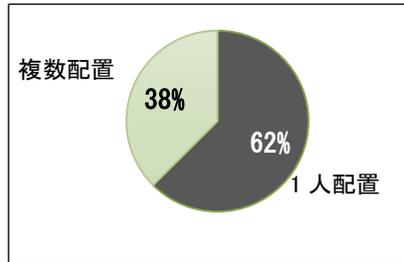


図6 養護教諭配置状況

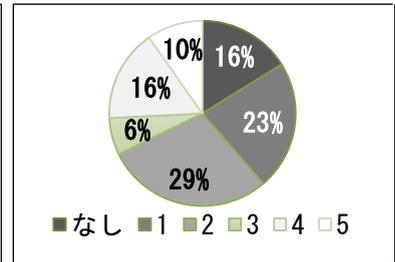


図7 校務分掌数

(2) 研修に関することについて

行政研修（基本研修）以外に受講した自主的研修や日々の自己研鑽状況については、図8、9のとおり経験年数が増えるにつれ割合が増加していた。訪問による聞き取りでは、今年度は新型コロナウイルスの影響から参加制限があり受講できなかったという声も聞かれた。そのため、養護教諭向け専門誌や書籍等をもとに自己研鑽に励んでいるという意見が多く挙げられていた。

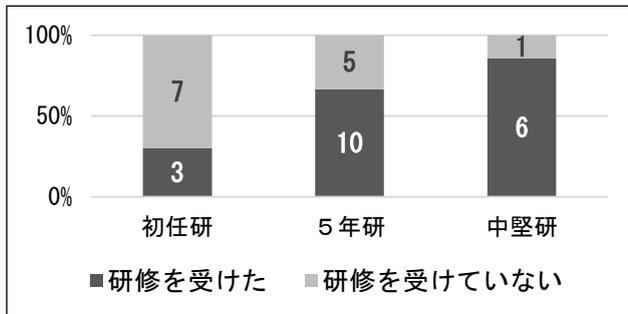


図8 自主的研修受講状況

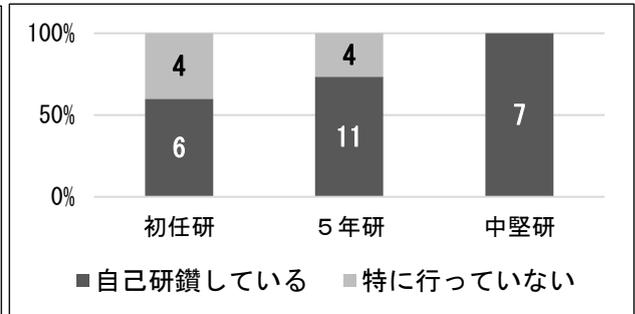


図9 自己研鑽の状況

(3) 教員等育成指標について

養護教諭研修（初任研、5年研、中堅研）を受講後、教員等育成指標についての理解が深まったかについては、「とても理解が深まった」「理解が深まった」との回答だった（図10）。また、研修実施後、教員等育成指標を意識して日々の実践を行っているかについては、「意識している」「時々」の回答が多くみられた（図11）。個別の聞き取りでは、教職員評価の際に、教員等育成指標を参考に目標設定を行っているとの声も聞かれた。さらに、日々の実践を客観的に振り返り、自身の資質能力や課題を把握するための「評価シート」は必要だと思うかについては、「必要だ」という回答が多いものの、年数が増えるにつれ、「あまり必要ではない」との回答もみられた（図12）。

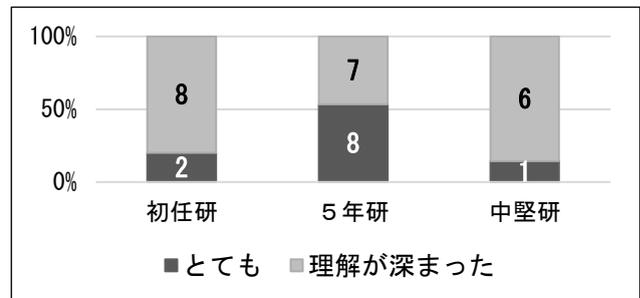


図10 教員等育成指標の理解について

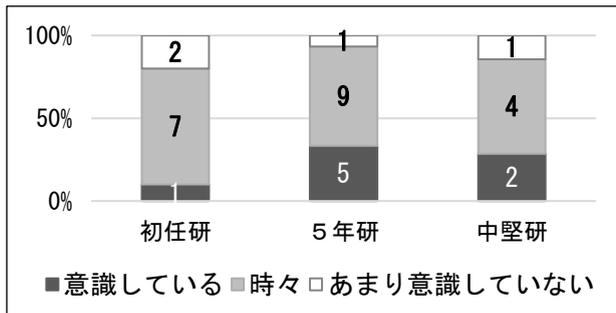


図11 教員等育成指標を意識した日々の実践について

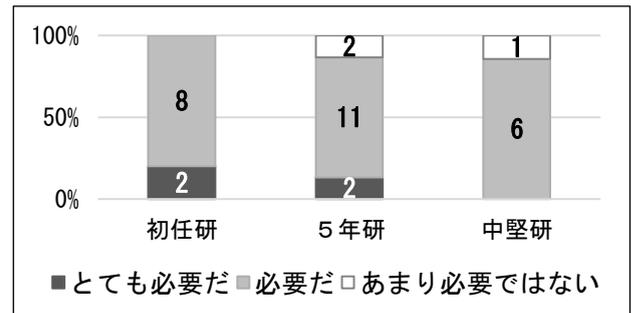


図12 評価シートの必要性について

(4) 養護教諭に求められる能力について

今回調査した養護教諭に求められる能力は、埼玉県教育委員会「埼玉県『養護教諭育成支援事業』報告書」(2019)の中で示された資質能力と森紀子らによる先行研究(2009)で示された10の能力を参考にして14の能力として調査を行った(表4)。調査対象者へ、必要とする度合いについて5段階評価(5:非常に必要である、4:必要である、3:普通、2:それほど必要ではない、1:ほとんど必要ではない)で回答を求めた。

その結果、「⑩救急処置知識及び技術、救急処置能力」、「⑪心身の健康状態を観察及び分析する能力」、「⑦チーム力、関係者と連携する能力」が上位に挙げられていた(表5)。特徴的な結果としては、5年研及び中堅研受講者において、「⑦チーム力、関係者と連携する能力」が3番目に高かったのに対して、初任研受講者では6番目に挙げられていた。チーム力は、これからの時代に求められる資質能力として特に重要であり、初任者の段階から意識して身に付けることができるよう「評価シート」の活用を目指していく。一方、下位の項目は、「⑧生徒指導力」、「④養護教諭の専門性を生かした教科指導の指導力」、「⑭研究能力」であった(表6)。これらの力は、本県教育の課題解決を目指す上で、今後ますます必要となる能力と考える。教員等育成指標に基づき、研修内容の検討と充実を図っていく必要がある。

表4 養護教諭に求められる14の能力

①発育発達の知識、発達課題に関する知識
②個人又は集団の健康に関する情報収集能力及び処理能力
③健康問題を解決する指導力
④養護教諭の専門性を生かした教科指導の指導力
⑤専門性を生かしたカウンセリングの能力
⑥疫学的知識
⑦チーム力、関係者と連携する能力
⑧生徒指導力
⑨看護能力
⑩救急処置知識及び技術、救急処置能力
⑪心身の健康状態を観察及び分析する能力
⑫健康問題解決のための企画力・実行力・調整能力
⑬プレゼンテーション能力
⑭研究能力

表5 今後必要とされる能力(上位)

項目	値
救急処置知識及び技術、救急処置能力	5.0
心身の健康状態を観察及び分析する能力	4.9
チーム力、関係者と連携する能力	4.8
発育発達の知識、発達課題に関する知識	4.7
個人又は集団の健康に関する情報収集能力及び処理能力	4.6
専門性を生かしたカウンセリングの能力	4.6

表6 今後必要とされる能力(下位)

項目	値
生徒指導力	3.7
養護教諭の専門性を生かした教科指導の指導力	3.8
研究能力	3.9
プレゼンテーション能力	4.1
疫学的知識	4.3

(5) 養護教諭研修(専門研修を中心に)の活用の度合いとその具体的状況について

養護教諭研修(初任研、5年研、中堅研)の研修内容のうち、研修終了後の教育活動において役に立った度合いを5段階評価(5:大いに活用した、4:活用した、3:どちらともいえない、2:あまり活用しなかった、1:ほとんど活用しなかった)で回答を求めた。

① 初任研受講者の回答結果より

初任研の研修内容を活用度の高い順に示した(表7)。上位に挙げられていた研修項目は、「先輩養護教諭に学ぶ『疾病管理とけがの対応』」、「学校における救急法の理論と実際」、「保健室経営計画に基づいた保健室経営」、「情報教育」だった。一方、活用度が低い研修項目は、「構成的グループエンカウンター(県立)」、「食教育」だった。具体的な活用場面としては、「不登校・登校しぶりのある児童生徒への対応」「日々の業務の効率化」「児童生徒の身体的不調の背景理解」

表7 初任研受講者の活用状況

研修内容		値
1	先輩養護教諭に学ぶ「疾病管理とけがの対応」	4.9
2	学校における救急法の理論と実際	4.8
3	保健室経営計画に基づいた保健室経営	4.7
3	情報教育(情報モラル、関数、プレゼン技法等)	4.7
5	発達が気になる児童生徒への理解と対応	4.6
5	養護教諭の職務と保健室経営	4.6
7	教育相談における養護教諭の役割とチーム支援(県立)	4.5
7	課題研究(実践報告と課題研究報告会含む)	4.5
9	本県の感染症の現状と課題	4.4
10	不登校対応「組織的な初期対応と個別支援」	4.3
11	学校における健康教育	4.1
11	社会人としての基本的なビジネスマナー	4.1
13	児童虐待「沖縄の現状と学校の役割」	3.9
13	子供の貧困「沖縄の現状と学校の役割」	3.9
15	学校経営と保健室(県立)	3.8
16	構成的グループエンカウンター(県立)	3.0
16	食教育「栄養教諭等と学級担任の連携」	3.0

などが挙げられていた。

② 5年研受講者の回答結果より

5年研の研修内容を活用度の高い順に示した(表8)。上位に挙げられていた研修項目は、「救急処置の理論と実際」、「学校における救急処置活動」、「発達障害をもつ児童生徒への支援と養護教諭の役割」だった。一方、活用度が低い研修項目は、「学校経営と保健室(県立)」、「がん教育の実践」だった。具体的な活用場面としては、「(救急法の)技術の再確認ができ、危機管理意識の向上につながった」「個別指導の場面で、具体的な目標の設定や本人のやる気を起こさせるなど実践に取り入れている」などが挙げられていた。

③ 中堅研受講者の回答結果より

中堅研の研修内容を活用度の高い順に示した(表9)。上位に挙げられていた研修項目は、「緊急時の対応と処置(シミュレーション)」、「課題研究(健康課題の把握と解決に向けて、実践報告)」だった。一方、活用度が低い研修項目は、「カリキュラムマネジメントについて」、「教育相談における養護教諭の役割とチーム支援(県立)」だった。具体的な活用場面としては、「けがや失神など緊急時の際に役立った」「毎日の検温(新型コロナ関連)の報告にアンケート作成ツールを活用したり、定期健康診断結果の統計等に役立っている」「組織を動かす力、学校全体を巻き込むことを常に意識して、職務をすすめるようになった」などが挙げられていた。

(6) 職務上困っていることについて

全てのステージにおいて、新型コロナへの対応が挙げられていた(表10、11、12)。その他、ステージ別にみると、初任研受講者では、発達特性に応じた対応や健康課題解決に向けたアプローチなど、養護教諭としての基本的内容が挙げられていた。5年研受講者では、校務分掌が多いことによる本来の職務への影響が多く挙げられていた。中堅研受講者では、中堅としての役割が増し、外部連携など全校的な視点で困り感を抱えていることが分かった。困っていることへの対応としては、どのステージにおいても、「関係する教職員や管理職との連携」と「養護教諭同士のネットワーク」が挙げられていた。これらの結果からも、学校の組織力向上を図り、養護教諭の研修機会を確保することの重要性が伺える。

表8 5年研受講者の活用状況

研修内容		値
1	救急処置の理論と実際	4.8
1	学校における救急処置活動	4.8
3	発達障害をもつ児童生徒への支援と養護教諭の役割	4.7
4	児童生徒の性の課題とその支援	4.4
5	教育相談における養護教諭の役割とチーム支援(県立)	4.3
5	健康課題解決に向けた保健教育の実践	4.3
7	健康教育と学校	4.2
7	アンダーマネジメントを取り入れた健康相談	4.2
9	疾病予防と管理「児童生徒にも実は身近ながんという病気」	3.6
10	学校経営と保健室(県立)	3.5
11	がん教育の実践	3.4

表9 中堅研受講者の活用状況

研修内容		値
1	緊急時の対応と処置(シミュレーション)	4.6
2	課題研究(健康課題の把握と解決に向けて、実践報告)	4.4
3	発達障害支援「10年目教諭に求められていること」	4.3
3	情報教育「情報モラル、アンケート集計等」	4.3
5	学校におけるサポート体制の構築	4.1
5	子どもの貧困対策「学校と福祉の連携」	4.1
7	学校経営と保健室(県立)	4.0
7	学校教育と組織的な学校保健活動	4.0
9	課題を抱える児童生徒への対応	3.7
10	疾病予防と管理「小児がんと学校教育」	3.6
10	防災教育「学校現場から広がる災害に強い人の育て方」	3.6
12	カリキュラムマネジメントについて	3.4
13	教育相談における養護教諭の役割とチーム支援(県立)	3.0

表10 初任研受講者の困り感(一部抜粋)

- 困り感のある児童生徒への発達特性に合わせた対応
- 新型コロナへの対応に合わせた医療的ケアの体制整備
- 業務量の多さ(今年度は、新型コロナの影響から担当業務が増えた)
- 校務分掌が多く、一つ一つが中途半端になっていないか
- 新型コロナ感染防止対策(行事の運営等含む)
- 健康課題の解決に向けた児童や保護者へのアプローチ法

表12 中堅研受講者の困り感(一部抜粋)

- 体調不良、けが人、登校しぶりなどの児童生徒への対応
- 新型コロナ感染症対策(マスクの管理、消毒液の補充、健康観察シートの作成・配布など)
- 臨時休校等により保健室登校をしている児童への対応が難しくなった
- 校務分掌上の困難感(専門外業務への対応等)
- 不登校児童へのアプローチの仕方(家庭・保護者の支援を要するケースが多い)
- SC、SSWなど専門職の活用と連携
- 離島校に勤務しているため、情報収集に関することや研修会への参加等について困難さを感じる

表11 5年研受講者の困り感(一部抜粋)

- 別室登校の児童生徒への対応(臨時休校も多く、メンタル面のケア)
- 新型コロナ感染症対策(出席停止、健康観察の方法、物品購入等含む)
- 校務分掌が多く、学校保健をしっかりできているのか不安
- 校務分掌が多く、現在担っている役割が手薄になっていないか不安になる
- 孤立しやすい職場環境
- 保健・安全管理に対する職員の意識
- 大規模校での共通確認が難しい。情報がうまく伝わらない

(7) 養護教諭研修への要望について

養護教諭研修（初任研、5年研、中堅研）終了後、各自の1年間の経験を踏まえ、要望する研修について回答を求めた。その結果、以下のような回答が得られた（表13、14、15）。

養護教諭の職務の中心ともいえる救急処置については、全てのステージにおいて要望が挙げられており、全身状態の観察と高いアセスメント能力の向上を図る研修を希望していることがわかった。また、集団への保健教育を実施する際の「授業づくり（指導案作成等含む）」についての要望も多かった。更に、他の教諭等と同様に教職2年目研修を導入し、更なる知識や技能を習得したいという意見や、高等学校に勤務する初任者からは、現代的健康課題を抱える生徒への支援として精神疾患を含むメンタルヘルスに関する研修を希望する声も聞かれた。その他、LGBTに関する研修など、特別な配慮を必要とする児童生徒への支援に関する要望があった。

養護教諭は、養成校種別に「看護学系」と「教育学系」に大別され、力量形成において考慮すべき点も多い。また、本県においては、研修の多くを小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の養護教諭が一堂に会して行われていることから、研修見直しにあたっては、今日的な教育の動向を踏まえつつ、受講者のニーズや現状を的確に把握しながら、研修内容の精選と研修運営の検討を行っていく必要がある。

表13 初任研受講者の要望する研修内容

集団への保健教育の進め方(授業実践)	2
カウンセリング技法	1
フィジカルアセスメント技法	1
他校の保健室見学	1
不登校児童生徒への具体的な対応	1
性教育やLGBTについて	1
保護者対応	1
他教諭との連携	1
メンタルケアや精神疾患について	1
特別支援学校の養護教諭の役割	1
肥満指導や性に関する保健教育の実践	1
2年目研修の実施	1
保健室経営について	1

表15 中堅研受講者の要望する研修内容

学校において予防すべき感染症対策	2
登校しぶり、保健室登校、不登校児童への支援	1
救急処置のシミュレーション(時間を増やす)	1
教育相談(カウンセリング技法等)	1
LGBTに関する研修	1

表14 5年研受講者の要望する研修内容

保健教育、授業づくり(授業研究会等)	3
メンタルヘルスへの対応と支援	2
フィジカルアセスメントの技法	2
感染症への対応(連携含む)	2
カウンセリング研修(傾聴スキル等)	2
保健室での外科的救急処置 (包帯法や担架の使い方など含む)	2
虐待やネグレクト、貧困問題への対応	1
保健室経営の実践例	1
情報教育(スキルアップ研修)	1
危機管理	1
保健室コーチング	1
SNSトラブルやスマホ依存への対応	1
他教諭との合同研修 (ワークショップによる保健安全管理)	1
アレルギー講習会	1

4 養護教諭研修の内容検討について

(1) 「評価シート」の作成について

評価シートは、「埼玉県『養護教諭育成支援事業』報告書」（2019）並びに京都府教育委員会「京都府教員等の資質能力の向上に関する指標」を参考に、本県の教員等育成指標で求める4つの力について作成した（図13）。評価シートで示した項目は、「～できる」等の行動目標として示し、養護教諭が日々の実践で活用しやすい表現にした。また、同じステージにあっても、経験等によっては養護教諭の職務遂行能力に差があることを想定し、これから目指すべきステージとして、主に指導ステージ（概ね18年目以降）に焦点を合わせた内容とした。そして、それぞれの項目毎に41点から205点で点数化し、自身の資質能力を把握できるようにした。更に、評価シートへ研修内容を記載することで、教員等育成指標との関連を図ることができるようにしている。

門川ら（2012）は、先行研究において、「学校の中で1人配置の養護教諭は、その職務能力を向上させる過程において、強い意思と行動を伴った『自律』を必要とする。」と示している。評価シートの活用の際には、研修の前後に実施することで、課題意識を持って主体的に研修に臨むことができるようにし、養護教諭の自己教育力の育成につなげたい。

育成すべき 四つの力	採用ステージ (1年目)	基礎ステージ (概ね3年目前後)	充実ステージ (概ね8年目前後)	発展ステージ (概ね13年目前後)	指導ステージ (概ね18年目前後)	A	B	C	D	E	
	初任研		5年研		中堅研		1点	2点	3点	4点	5点
	①の合計										
教職を支える力	倫理観 使命感 責任感	教育公務員として、子供たちの成長を担う尊い使命を自覚することができる									
		教育公務員として、より高い倫理観と強い使命感、責任感を持って行動することができる									
	教育的愛情 人権意識	開講式(センター、各事務所)		オリエンテーション、各事務所研修		開講式(センター、各事務所)					
		教師として、日々子供たちと向き合い、その成長に大きな影響を与える存在として、真の教育的愛情を持って子供たちと関わることができる									
豊かな人間性 学び続ける力	平和教育、マナー講座、人権教育		オリエンテーション、各事務所研修		開講式、職場体験研修						
	教師として、子供たちを導くために、自らの感性を高め、豊かな人間性を養うことができる										
合同研修、課題研究(報告会含む)						オリエンテーション、各事務所研修		開講式、課題研究			
小計①											
生徒指導力	児童生徒理解	児童生徒理解の意義を理解し、資料・情報収集の方法や人格・心理の発達特性等の基礎的・基本的な知識・技能等を身に付けている									
		適切なコミュニケーションや丁寧な観察、保護者との連携、調査等を活用して、資料・情報を適切に収集し、他の教職員と共有することができる									
	個別指導 集団指導	自らの経験や強み等を生かして、学校全体の状況や地域の実態等を踏まえた児童生徒理解の組織的・計画的な取組を効果的に推進することができる									
		特別支援教育、教育相談(県立)		特別支援教育、教育相談・生徒指導(県立)		特別支援教育、教育相談・生徒指導(県立)					
養護教諭として、生徒指導上の課題等について、学校内外の関係者と連携・協働し、組織的な解決を図ることができる											
養護教諭として、自らの経験や強み等を生かして、学校全体の状況や地域の実態等を踏まえた生徒指導及びキャリア教育の取組を推進することができる											
養護教諭として、学年や分掌等における生徒指導の連携・協働体制において、中心的な役割を果たし、他の教職員に指導・助言をすることができる											
キャリア教育、教育相談(県立)		特別支援教育、教育相談・生徒指導(県立)		特別支援教育、教育相談・生徒指導(県立)							
②の合計											
小計②											
学校保健実践力(養護教諭)	保健管理	学校保健安全法等を理解し、児童生徒等や地域の実態等を踏まえ、他の教職員や学校医等と連携・協働して、健康診断や学校環境衛生管理等の取組を適正に行うことができる									
		保健主事等と連携・協働して、救急体制を整備し、専門性を生かして、適正な救急処置を行うことができる									
		児童生徒のケガや病気、事故等への対応や未然防止について高い専門性と深い知識を持ち、的確に対処できるとともに校内全体へ助言できる									
	救急処置の理論と実際(実技)		救急処置の理論と実際(実技)		救急処置(シミュレーション)						
	児童生徒の健康管理		がん教育、リスクマネジメント		小児がんと学校教育						
	保健教育	保健教育における自身の役割を理解し、専門性を生かした保健教育ができる									
		沖縄県の施策や児童生徒等の実態等に応じて、各教科や総合的な学習の時間、特別活動等の各時間の特色を生かした計画的・組織的な保健教育の取組を実践することができる									
		新たな教材や教員及びICTの活用等の保健教育に関する知識・技能等を充実させ、創意工夫を生かした保健教育の取組を実践・推進することができる									
	専門性をいかした保健教育の進め方		学校における健康教育・がん教育		カリキュラム・マネジメント						
	学級担任と連携した保健教育の実践		専門性をいかした保健教育の進め方		専門性をいかした保健教育の進め方						
健康相談	児童生徒等の現代的な健康課題等に適切に対応するために、健康相談の基本的な過程を理解し、計画的・組織的な健康相談を実践することができる										
	心身の健康課題を総合的に捉え、校内支援体制の充実に努めることができる										
	児童生徒の心身の健康問題に対して、他の教職員へ指導的役割を果たすことができる										
児童生徒の心の病とその対応		児童生徒の性の課題と支援		思春期の心の病と対応、チーム支援							
保健室経営	法令や通知等に基づいて保健室の設備や備品等を適正に管理し、適切な環境整備に努めることができる										
	学校保健のセンター的役割が果たされるよう、保健室経営計画や保健室の機能等について、児童生徒等や教職員等に周知を図り、計画的・組織的な保健室経営を実践することができる										
	豊かな知識・技能や経験等を生かして、全校的な視点から、保健室を経営・評価し、学校教育目標の実現に向けた取組ができる										
養護教諭の職務と保健室経営		救急処置の理論と実際		課題を抱える児童生徒への対応							
保健室経営計画に基づいた保健室経営		学校における健康教育									
保健組織活動	学校保健委員会や児童生徒保健委員会等に積極的にに関わり、専門性を生かした適切な指導・助言を行うことができる										
	これまでの経験や自らの強み等を生かして、保健組織活動における中心的な役割を果たし、学校全体の状況や地域の実態等を踏まえた効果的な保健組織活動の取組を推進することができる										
	近隣の学校と連携し、地域全体で健康づくりを進め、自らの実践を発信できる										
保健室における疾病管理とケガの対応		学校における健康教育		チーム支援・課題研究							
③の合計											
小計③											
学校運営力	連携・協働	校務分掌組織のリーダーとして、他の教職員と連携・協働して、的確に業務を遂行できる									
		保護者や地域社会、専門家や関係機関、他校の教職員と連携・協働し、教育目標の実現に向けて業務を遂行できる									
		他の教職員から相談を受けたり、助言や支援を行うなど、同僚性の向上や人材育成に積極的に関わることができる									
	学級担任と連携した保健教育の実践		子どもの貧困対策		健康相談の充実を図るチーム支援						
			児童生徒の性の課題とその支援		健康課題の把握と解決に向けて						
	安全・危機管理	養護教諭として、事故等が発生した場合の緊急対応体制を把握し、発生時には他の教職員と連携・協働体制のもとで、適切に対応することができる									
		養護教諭として、危険箇所の指摘や事故の未然防止に向けた取組について提案する等、安全・危機管理の充実を図ることができる									
		学校安全や危機管理の観点から、学校の危機管理マニュアルを的確に運用しつつ、その改善を提案するなど、中心的役割を果たすことができる									
	救急処置の理論と実際		救急処置の理論と実際		救急法(シミュレーション)						
	課題解決	養護教諭としての専門性を生かし、担当する校務について、常に改善の視点を持ち、課題の発見及び解決に取り組むことができる									
養護教諭としての専門性を生かし、課題を示したり、解決に向けた取組を提案する等、校内の課題解決を推進することができる											
児童生徒の課題解決に向けて、学校や学年の実態を踏まえ、他の教職員に対して養護教諭としての専門性を生かし、適切な指導・助言をすることができる											
課題研究		学校における健康教育		本県教育の現状と課題、課題研究							
事務処理	養護教諭として、正確な処理及び期限を守る等の適切な管理を行うと共に、タイムマネジメントの視点からより効率的な事務処理に努めることができる										
	養護教諭として、全校的な視点から、より適正で効率的な事務処理について、他の教職員に適切な指導・助言をすることができる										
情報教育		ヒヤリハットに学ぶリスクマネジメント		情報教育							
情報活用・管理	養護教諭として、必要な情報を適切に収集し、その妥当性や信頼性等を判断して、法令等に従い適正に活用することができる										
	養護教諭として、個人情報の取り扱い等について、他の教職員と情報共有を図り、情報管理の徹底に努めることができる										
	養護教諭として、全校的な視点から、ICT活用の知識や技能を生かした効果的な業務の進め方について、他の教職員に適切な指導・助言をすることができる										
健康情報の把握と活用		ヒヤリハットに学ぶリスクマネジメント		健康情報の把握と活用							
④の合計											
小計④											
小計①～④まで全て1点の場合、合計で41点						総合計①～④					
小計①～④まで全て5点の場合、合計で205点											

図 13 評価シート

(2) キャリアステージに応じた養護教諭研修について

アンケート調査の結果を踏まえて、新たに3つの視点を設定した。具体的には、①自己の資質把握と実践意欲を高めるため、各養護教諭研修において「評価シート」を活用する。②研修の質を揃えるためにも、オンラインによる全校種対応オリエンテーションを実施する。③離島や僻地に勤務する養護教諭の研修参加への負担を軽減していけるよう、対面による研修と併せて、オンライン研修対応講座を開設していく。これらの視点をもとに研修を見直し、キャリアステージに応じた研修においても、教員等育成指標の内容と照らし合わせ、受講者のニーズも踏まえながら、不足する内容については新設することとした（図14）。

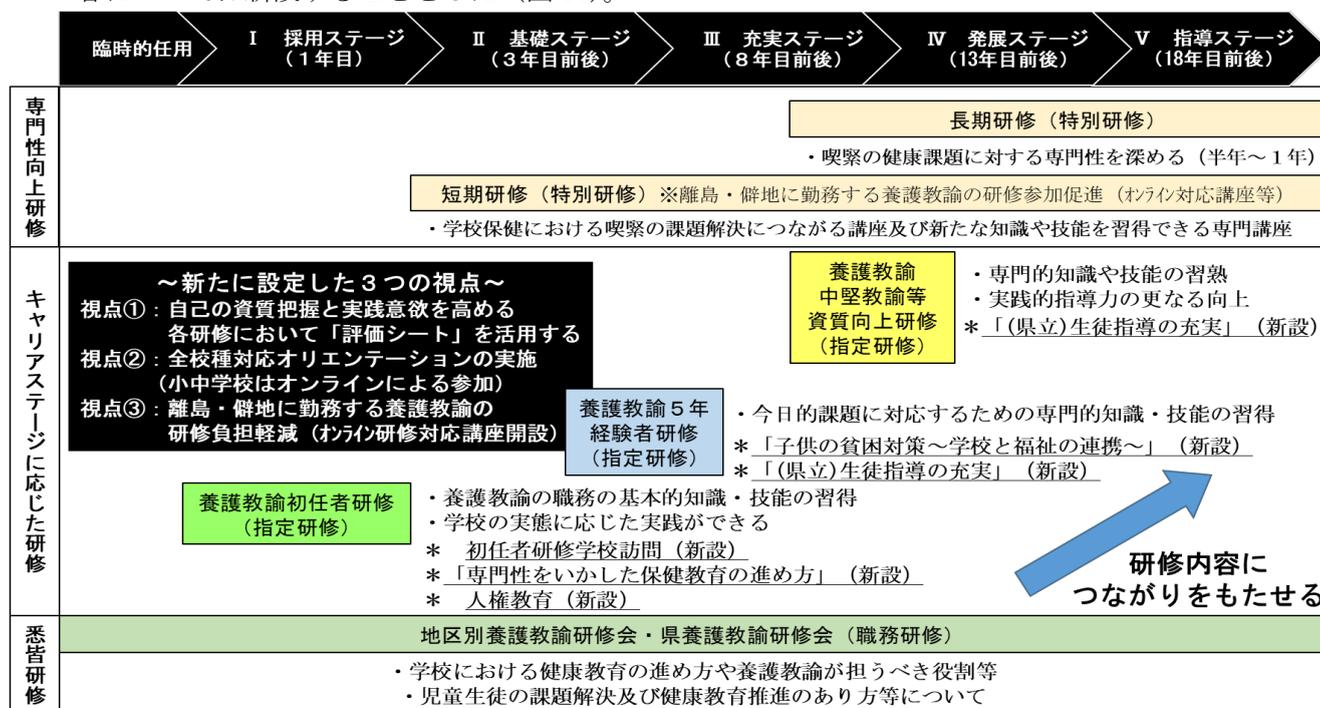


図14 キャリアステージに応じた養護教諭研修 (研修体系概要)

(3) 初任研研修の充実に向けて

今回、令和3年度以降の導入を検討するため、初任研学校訪問を実施した（表16）。訪問を通して、初任者配置の実態や学校での様子、校内研修体制や研修の進捗等について把握することができた（表17）。

表16 養護教諭初任研に係る学校訪問

<p>1 ねらい 初任者研修の一層の充実に向けて校内研修体制や初任者の学校での様子等を把握する。</p> <p>2 参加者：校長、教頭、研修指導者（校内に指導者が配置されている2校のみ）</p> <p>3 訪問者：総合教育センター教職研修総括、養護教諭初任者研修担当主事 2名</p> <p>4 訪問校 本島内：6校（小学校4校、中学校1校、特別支援学校1校） 離島：6校（小学校2校、中学校2校、高等学校1校、特別支援学校1校）</p> <p>5 訪問日程：令和2年11月～12月</p> <p>6 主な聞き取り内容 (1) 学校の様子（管理者へ） ①校内研修体制 ②校内研修での課題 ③研修指導者等への配慮 ④初任者の多忙さ（健康への気配り） ⑤研修指導者と初任者との関係 ⑥初任者研修全般についての要望 (2) 初任者の様子（研修指導者へ） ①保健室経営について ②児童生徒や同僚との人間関係について ③初任者を指導するにあたっての課題 ④指導者連絡協議会への要望 ⑤研修指導者の立場から、初任者研修に向けての要望 (3) 初任者との面談より</p>
--

表 17 養護教諭初任研学校訪問で寄せられた現状と課題等（一部抜粋）

～管理者より～

- ・船の欠航等で研修指導者が来島できず、研修時間が制限されることがあった。後半の研修はオンライン研修を導入することで双方向のやりとりが可能となった。離島校のため、初任者・指導者共に負担が軽減されている。
- ・ほとんどの学校では、養護教諭初任者を受け入れた経験がない。研修に向けた学校への説明が必要だと感じる。今回の訪問は、情報共有をする上でも、大変有難い。
- ・研修指導者が非常駐のため、「養護教諭」としてのサポートに多少の不便さはある。
- ・新型コロナによる例年以上の業務負担、校務分掌上の負担に対して、日々の声掛けや定時退勤を促す、部活動担当から外すなど配慮している。

～指導者より～

- ・新型コロナの影響で、連絡協議会が一度も行われていないことに対し、個人での指導に不安を感じる。

～初任者より～

- ・校務分掌が多く、養護教諭としての職務に専念できないことに対して不安に思うことがある。

初任研は、教員等育成指標においてキャリアステージの第一段階に位置づけられており、教職に対する自覚を高め、養護教諭としての基礎的・基本的な力を身に付ける上でとても重要である。そして、校内研修と校外研修の関連を図ることにより、職務遂行に必要な実践的指導力の向上を目指している。特に今年度は、新型コロナの影響により、一部の研修がオンライン研修となるなど、対面による研修機会が減り、同期採用者や先輩養護教諭との繋がりが十分に持てなかった。一人配置が多い養護教諭初任者にとって、他の養護教諭との関わりもさることながら、管理職や教職員の研修への支援は欠かせない。初任研のより一層の充実を目指し、学校組織として養護教諭の成長を促していくためにも、次年度以降も学校訪問の実施が望まれる。更に、こうした状況下においても、初任者の意欲向上と教員等育成指標の具現化を図っていけるよう「評価シート」の活用を図りたい。

Ⅲ まとめ

今回の調査研究を通して、養護教諭の職務の実態や教員等育成指標の理解について、また行政研修の活用実態等を把握することができた。特に今年度は、新型コロナの影響により、養護教諭に求められる役割が増しており、更なる能力向上に向けて、養護教諭自身が試行錯誤している現状が明らかになった。

平川（2016）は、実証的研究の中で、「養護教諭が、職務遂行の期間を通して学び続けるためには、学習の機会及び養護教諭自身の資質能力向上に対する意識と行動が鍵になる」と示唆している。本研究で提案した評価シートは、主に本センターで実施されている養護教諭研修において活用していく。そして研修前後における自身の資質能力評価や課題把握に役立てることで、その後の実践意欲につながり、校内研修や自主研修を通して、専門職として必要な知識や技能、意欲、態度等を意図的・計画的・継続的に高めていくことが可能になると考える。

今回は、令和元年度養護教諭研修受講者のみを調査対象としているため（初任研学校訪問については令和2年度受講者を対象）、次年度以降も調査を継続し、養護教諭研修の内容検討や評価シートの内容改善を行う必要がある。そして、養護教諭の資質能力の向上に向けて、養護教諭自身が実践意欲を持ち続けながら、教員としてのキャリアステージを高めていくことができるよう、研修体制整備を図っていきたい。

〈参考文献〉

- 沖縄県教育委員会 2020 「令和2年度教職員研修事業計画書」
- 沖縄県教育委員会 2020 「令和2年度 初任者研修の手引」
- 埼玉県教育委員会 2019 「平成30年度埼玉県『養護教諭育成支援事業』報告書」
- 京都府教育委員会 2018 「京都府教員等の資質能力の向上に関する指標」
- 沖縄県教育委員会 2017 「沖縄県教育振興基本計画～沖縄の未来を拓く人づくり～【後期改訂版】」
- 崎間 敦・白井こころ・奥村耕一郎・田名 毅 2016 『健康長寿へ向けた沖縄の課題と取り組み』 日建教誌
- 平川俊功 2016 『養護教諭の資質能力の向上』 学事出版株式会社
- 沖縄県 2014 「健康おきなわ21 第2次 ～健康・長寿おきなわ復活プラン～」
- 門川由紀江・中島節子・早川維子・長谷川久江 2012 「新人養護教諭のためのキャリア形成プログラムの開発」 松本大学
- 森 紀子・佐藤 理 2009 「養護教諭の職務内容と研修の在り方に関する一考察—福島県の養護教諭に対するアンケート調査を踏まえて—」 福島大学総合教育研究センター紀要第7号